

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年4月19日(2007.4.19)

【公開番号】特開2006-29826(P2006-29826A)

【公開日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-005

【出願番号】特願2004-205178(P2004-205178)

【国際特許分類】

**G 0 1 R 31/316 (2006.01)**

**G 0 1 R 27/28 (2006.01)**

【F I】

G 0 1 R 31/28 C

G 0 1 R 27/28 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月19日(2006.12.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

入力信号に応じて出力信号を出力する電子デバイスにおける遅延量を測定する遅延量測定方法であって、

前記入力信号及び前記出力信号をデジタルデータに変換する変換段階と、

前記入力信号又は前記出力信号のいずれかの前記デジタルデータを時間方向に順次シフトさせるシフト段階と、

前記入力信号のデジタルデータと、前記出力信号のデジタルデータとの二乗誤差を、前記シフト段階におけるシフト量のそれぞれに対して算出する誤差算出段階と、

前記二乗誤差が極小値となる前記シフト量を非線形最小二乗法によって算出し、算出した前記シフト量を前記電子デバイスにおける遅延量とする遅延量算出段階とを備える遅延量測定方法。

【請求項2】

入力信号に応じて出力信号を出力する電子デバイスにおける遅延量を測定する測定装置であって、

前記入力信号及び前記出力信号をデジタルデータに変換するアナログデジタルコンバータと、

前記入力信号又は前記出力信号のいずれかの前記デジタルデータを時間方向に順次シフトさせ、前記入力信号のデジタルデータと、前記出力信号のデジタルデータとの二乗誤差をシフト量のそれぞれに対して算出し、前記二乗誤差が極小値となる前記シフト量を非線形最小二乗法によって算出し、算出した前記シフト量を前記電子デバイスにおける遅延量とする演算部と

を備える測定装置。

【請求項3】

前記演算部は、前記入力信号又は前記出力信号のいずれかの前記デジタルデータを、前記アナログデジタルコンバータのサンプリング周期の整数倍のシフト量で、時間方向に順次シフトさせる

請求項2に記載の測定装置。

**【請求項 4】**

前記演算部は、

前記入力信号又は前記出力信号のいずれかの前記デジタルデータを周波数領域の複素信号に変換し、

前記周波数領域の複素信号の位相を、前記シフト量に応じたシフトさせ、

位相をシフトさせた前記周波数領域の複素信号を逆フーリエ変換して、時間領域の信号に変換することにより、

前記入力信号又は前記出力信号のいずれかの前記デジタルデータを、前記アナログデジタルコンバータのサンプリング周期のより小さいシフト量で、時間方向にシフトさせる  
請求項 2 に記載の測定装置。

**【請求項 5】**

前記シフト量は、測定した遅延時間の精度に応じて予め定められる  
請求項 2 に記載の測定装置。

**【手続補正 2】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**発明の名称

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【発明の名称】**遅延量測定方法、及び測定装置